

I 実践

1 本校の人権教育の目標

(1) 経営方針

ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的なふれあいを通して平等や人権尊重の精神の育成を目指す。

イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、言語環境を整えることで、意欲的に生活や学習ができる集団づくりを目指す。

ウ 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ち等がわかるような想像力、共感的に理解する力の育成を目指す。

(2) 施策

ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。

イ 生徒の実態や悩みなどを教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。

ウ 体育祭や文化祭など各種行事や活動を通して感謝の心や思いやりの心を育てる。

エ 学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。

オ 生徒たちが人権の重要性について、自ら考え、議論することができるような、充実した人権コーナーの設置をする。

2 実践内容

(1) あいさつ運動

生活委員、部活動有志が中心となり、登校する生徒に元気にあいさつをする。この「あいさつ運動」はあいさつの大切さを知り、心のこもったより良いあいさつができるようにするとともに、生徒同士、教師と生徒、保護者と生徒があいさつすることによって心を通わせ、好ましい人間関係をつくることのできるようにすることを狙いとして行っている。



【資料1 あいさつ運動】

(2) 全校での取り組み

ア 生活アンケートの実施

毎月生活アンケートを実施し、気になる生徒には声をかけたり、二者面談を実施したりするなどして、積極的な生徒理解に努めている。

イ QUアンケートの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする生徒を把握するために、2年生が5、10月に実施している。5月の実施結果をもとに、分析を行い支援した。再び10月に実施し、前回と比較し、人間関係の改善状況を把握し、次の改善につなげた。

(3) 学年での取り組み

ア 1 学年での構成的グループエンカウターの実施

担任とスクールカウンセラーによる「構成的グループエンカウター」を実施し、人には違いがあり認め合いながら生活することの大切さを学んだ。

イ 2 学年での鶺鴒舞の実施

学年全体での鶺鴒舞を通して、仲間との協調や郷土への理解・誇りなどの感情を育んだ。また、1 学年への継承から、信頼関係の醸成や思いやりの心を育むこともできた。



【資料2 鶺鴒舞披露】



【資料3 練習風景】

ウ 3 学年での社会科公民的分野での授業実践

単元「日本国憲法と人権」の第2時「人権の歴史」にて、世界の人権に関する歴史を概観し、人権について知識・理解面から整理した。

エ 道徳・学級活動での取り組み

(ア) 道徳・学級の実態に合わせた資料や身近に起こりうることを想定した題材を活用し、意見交換を通して自分の考えを再構築するような授業展開を心掛けている。

(イ) 学級活動・構成的グループエンカウターやロールプレイング、アンガーマネジメントの実践を通して楽しく活動しながら相手の立場を考え、自分の行動を見直せるような授業構成を心掛けている。



【資料4 道徳コーナー】

(4) 外部講師による講演会

ア いのちの教育

3年生を対象として「性感染症についての理解と予防法」、「異性とのよい関わり方」について学んだ。

イ メディア研修会の実施

KDDIの方を講師に招き、携帯電話、スマートフォン等の使い方や危険性、人権意識の向上について学んだ。

3 成果

(1) 全校統一の教材で道徳指導をしたことにより、生徒にとってタイムリーな内容を扱って人権感覚を養うとともに、教師間のさらなる連携強化につながった。

(2) 体験活動や学校行事等を通して、同学年との交流だけでなく、上級・下級学年や地域の人たちとの交流が図られ、思いやりや優しさといった人権意識を醸成することができた。

II 今後の課題

生徒が身に付けた互いに信頼し、思いやりをもって生活する態度をさらに確かなものにするため、各教科・特別活動での授業実践や地域との交流を継続していきたい。